

東アジアの美術に関する資料学的研究 (①美01-10-5/5)

目 的

日本を含む東アジア地域の美術を対象に、人とモノとが複雑に絡み合って多様に展開する価値形成のしくみを解明することを目指す。研究にあたっては、より質の高い資料の提示が求められる時勢に対応して、新しい技術、精度、信頼性、網羅性など必要な条件を満たすこれからの美術資料のあり方や可能性を探り、資料の収集・蓄積・公表等においてそれを具体的に実現することに留意している。

成 果

- (1) 情報資料の収集のための調査：永青文庫が所蔵する横山大観《山路》の調査を、寄託先である熊本県立美術館にて行った（塩谷）。
- (2) 美術史研究のためのコンテンツの形成：『日本絵画史年記資料集成 十五世紀』の刊行にむけて蓄積したデータ（総登録数4181件、重複を含む）のうち載録分（全833件）の校正、ならびに未掲載分の整理統合作業を完了した（綿田）。既に当研究所OBによってカード化されている古記録・文献史料記載巻関係資料のデータ化を行った。作業にあたっては目録（出典等）のみならず当該記事本文も入力し、公開時の利便性を図った。今年度は約1800件の入力を終えた（土屋）。
- (3) 研究会の開催：2月27日に『美術研究』400号、『美術史論壇』30号記念日韓共同シンポジウム「人とモノの「力学」—美術史における「評価」」を開催、洪善杓氏（韓国美術研究所・梨花女子大学校）による基調講演、張辰城氏（ソウル大学校）・文貞姫氏（韓国美術研究所）・綿田・江村による発表、および田中・相澤による司会でディスカッションを行った。同シンポジウムは「視線の『力学』—美術史における『評価』」のタイトルで3月12日にソウルの梨花女子大学校でも開催、基調講演を田中が務めた。またオープンレクチャーを本研究と関連させ、「人とモノの力学」というテーマのもと10月15・16日に開催した（内容については、70頁を参照）。
- (4) 報告書の刊行：日本絵画史関係の年記資料のうち15世紀の銘記類、833件を翻刻して年代順に集成した『日本絵画史年記資料集成 十五世紀』を刊行した。

論文等掲載 3件

- ・田中淳「東京文化財研究所『日本美術年鑑』とデジタルアーカイブ」水谷長志編著『MLA連携の現状・課題・将来』pp.151-161 勉誠出版 10.6
- ・皿井舞「神護寺薬師如来の史的考察」『美術研究』403 pp.1-24 11.3
- ・土屋貴裕「天狗草紙」の作画工房」『美術研究』403 pp.25-57 11.3

口頭発表 5件

- ・綿田稔「山水長巻考—雪舟の再評価にむけて」日韓共同シンポジウム 11.2.27、3.12
- ・江村知子「江戸時代初期風俗画の表現世界」日韓共同シンポジウム 11.2.27、3.12
- ・田中淳「創作と評価—萬鉄五郎《風船を持つ女》を中心に」日韓共同シンポジウム「視線の「力学」—美術史における「評価」」 11.3.12
- ・津田徹英「中世における真宗祖師先徳彫像の制作をめぐって」第44回オープンレクチャー 10.10.15
- ・塩谷純「秋元洒汀と明治の日本画」第44回オープンレクチャー 10.10.16

出版物 1件：『日本絵画史年記資料集成 十五世紀』東京文化財研究所 11.3

研究組織

○塩谷純、田中淳、勝木言一郎、津田徹英、山梨絵美子、綿田稔、皿井舞、江村知子、土屋貴裕（以上、企画情報部）、中野照男（副所長）、相澤正彦、吉田千鶴子、三上豊、森下正昭（以上、客員研究員）